

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2007-291702
(P2007-291702A)

(43) 公開日 平成19年11月8日(2007.11.8)

(51) Int.Cl.
E O 4 F 13/26 (2006.01)

F I
E O 4 F 13/08 1 O 1 D

テーマコード (参考)
2 E 1 1 O

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)	
(21) 出願番号 (22) 出願日	特願2006-120056 (P2006-120056) 平成18年4月25日 (2006. 4. 25)
(71) 出願人	000005832 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地
(72) 発明者	瀬戸 一範 大阪府門真市大字門真1048番地松下電 工株式会社内
(72) 発明者	小西 悟 大阪府門真市大字門真1048番地松下電 工株式会社内
(72) 発明者	鍛冶 良明 大阪府門真市大字門真1048番地松下電 工株式会社内
(72) 発明者	吉田 秀和 大阪府門真市大字門真1048番地松下電 工株式会社内
最終頁に続く	

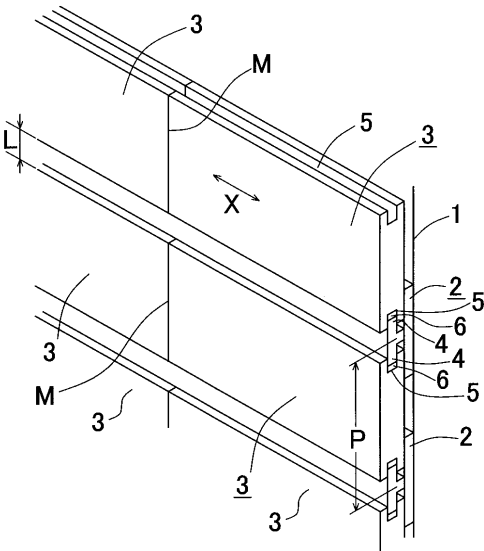
(54) 【発明の名称】化粧パネル取付構造

(57) 【要約】

【課題】化粧パネルが支持バー材を介して接続された状態でも、化粧パネルを動かして簡単に目地の位置ずれ調整を行なうことができる化粧パネル取付構造を提供する。

【解決手段】建物下地 1 に複数本の水平な支持バー材 2 を相互に平行にして取り付け、化粧パネル 3 を上下の支持バー材 2 間に挟持させて支持バー材 2 の上下両側に配設してなる化粧パネル取付構造であり、化粧パネル 3 は、支持バー材 2 に沿った方向 X に複数枚並設されると共に、支持バー材 2 に沿った方向 X に摺動自在である。

【選択図】図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

建物下地に複数本の支持バー材を相互に平行にして取り付け、化粧パネルを支持バー材間に挟持させて支持バー材の両側に配設してなる化粧パネル取付構造であって、化粧パネルは、支持バー材に沿った方向に複数枚並設されると共に、支持バー材に沿って摺動自在であることを特徴とする化粧パネル取付構造。

【請求項 2】

支持バー材の両側には係止片が突設されており、化粧パネルの支持バー材に沿った端部には凹溝が形成されており、係止片が凹溝に挿入係合されて化粧パネルは支持バー材の両側に配設されていることを特徴とする請求項 1 記載の化粧パネル取付構造。

10

【請求項 3】

凹溝の深さを変化させるために凹溝の底部分に収容されるスペーサーを備え、スペーサーが収容された凹溝に係止片を挿入係合することにより、係止片の挿入深さが変化して支持バー材の相互間隔寸法が調整されるようになしたことを特徴とする請求項 2 記載の化粧パネル取付構造。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本願発明は、室内壁面下地等の建物下地に複数本の支持バー材を相互に平行にして取り付け、内装壁パネル等の化粧パネルを支持バー材間に挟持させて支持バー材の両側に配設してなる化粧パネル取付構造に関するものである。

20

【背景技術】**【0002】**

従来から、図 3 に示すように、建物下地 1 に複数本の支持バー材 2（図では一本だけを示している）を相互に平行にして取り付け、化粧パネル 3 を支持バー材 2 間に挟持させて支持バー材 2 の両側に配設してなる化粧パネル取付構造は知られている（特許文献 1：特開平 6 - 10479 号公報）。この場合、支持バー材 2 の両側には係止片 4 が突設されており、化粧パネル 3 の支持バー材 2 に沿った端部には凹溝 5 が形成されており、係止片 4 が凹溝 5 に挿入係合されて化粧パネル 3 は支持バー材 2 の両側に配設されている。

【0003】

30

そして、この化粧パネル取付構造にあっては、支持バー材 2 が介在する化粧パネル 3 間の目地部分にはパッキン材 10 が充填されており、化粧パネル 3 は支持バー材 2 及びパッキン材 10 を介して強固且つ密封状態にして接続される。

【特許文献 1】特開平 6 - 10479 号公報**【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

しかしながら、上記従来例である化粧パネル取付構造においては、化粧パネル 3 が支持バー材 2 及びパッキン材 10 を介して接続された後には、化粧パネル 3 を動かすことができず、支持バー材 2 を介した化粧パネル 3 間の目地間隔寸法を調整したり、化粧パネル 3 を取り外したりすることは困難であった。また、化粧パネル 3 が支持バー材 2 に沿った方向に複数枚並設される場合には、隣接する化粧パネル 3 間の目地ラインが支持バー材 2 の両側相互で位置ずれした際に、その位置ずれ調整を行ない難いものであった。

40

【0005】

本願発明は、上記背景技術に鑑みてなされたものであり、その課題は、化粧パネルが支持バー材を介して接続された状態でも、化粧パネルを動かして簡単に目地の位置ずれ調整を行なうことができる化粧パネル取付構造を提供することである。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

上記課題を解決するために、本願請求項 1 記載の発明は、建物下地に複数本の支持バー

50

材を相互に平行にして取り付け、化粧パネルを支持バー材間に挟持させて支持バー材の両側に配設してなる化粧パネル取付構造であって、化粧パネルは、支持バー材に沿った方向に複数枚並設されると共に、支持バー材に沿って摺動自在であることを特徴としている。

【0007】

また、本願請求項2記載の発明は、前記化粧パネル取付構造において、支持バー材の両側には係止片が突設されており、化粧パネルの支持バー材に沿った端部には凹溝が形成されており、係止片が凹溝に挿入係合されて化粧パネルは支持バー材の両側に配設されていることを特徴としている。

【0008】

また、本願請求項3記載の発明は、前記化粧パネル取付構造において、凹溝の深さを变化させるために凹溝の底部分に収容されるスペーサーを備え、スペーサーが収容された凹溝に係止片を挿入係合することにより、係止片の挿入深さが変化して支持バー材の相互間隔寸法が調整されるようになしたことを特徴としている。

【発明の効果】

【0009】

本願請求項1記載の発明である化粧パネル取付構造においては、化粧パネルが支持バー材に沿った方向に複数枚並設されていて、隣接する化粧パネル間の目地ラインを支持バー材の両側相互間で位置調整する必要があり、この場合に、化粧パネルは支持バー材に沿って摺動自在であるため、化粧パネルを摺動させて支持バー材の両側で相互に化粧パネル間の目地ラインの位置を簡単に調整することができる。

【0010】

また、本願請求項2記載の発明である化粧パネル取付構造においては、特に、支持バー材の両側に突設される係止片が化粧パネルの支持バー材に沿った端部に形成される凹溝に挿入係合されるため、化粧パネルは支持バー材を介し確実な接続状態で支持されて外れることなくスムーズに摺動される。

【0011】

また、本願請求項3記載の発明である化粧パネル取付構造においては、特に、スペーサーが収容された凹溝に係止片を挿入係合することにより、係止片の挿入深さが変化して支持バー材の相互間隔寸法が調整されるため、スペーサーを入れたり入れなかったり、或いは、スペーサーの厚さを変更したりして、支持バー材が介在する化粧パネル間の目地巾寸法及び同目地相互間のピッチ寸法（支持バー材の相互間隔寸法）を簡単に調整することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

図1、2は、本願の請求項1～3全てに対応した一実施形態を示している。この実施形態の化粧パネル取付構造は、建物の内装（ここでは壁であるが天井でもよい）として施工されるもので、建物下地1に複数本の支持バー材2を相互に平行にして取り付け、化粧パネル3を支持バー材2間に挟持させて支持バー材2の両側に配設してなる。そして、この化粧パネル取付構造において、化粧パネル3は、支持バー材2に沿った方向Xに複数枚並設されると共に、支持バー材2に沿った同方向Xに摺動自在である。

【0013】

更に、この場合、支持バー材2の両側には係止片4が突設されており、化粧パネル3の支持バー材2に沿った端部には凹溝5が形成されており、係止片4が凹溝5に挿入係合されて化粧パネル3は支持バー材2の両側に配設されている。また、凹溝5の深さを变化させるために凹溝5の底部分に収容されるスペーサー6を備え、スペーサー6が収容された凹溝5に係止片4を挿入係合することにより、係止片4の挿入深さが変化して支持バー材2の相互間隔寸法Pが調整されるようになっている。

【0014】

以下、この実施形態の化粧パネル取付構造をより具体的詳細に説明する。この実施形態の化粧パネル取付構造は、建物の内装壁に施工されており、建物下地1はコンパネ等の壁

10

20

30

40

50

下地材である。支持バー材 2 はアルミニウム等の金属或いは硬質合成樹脂でなる押出成形された型材であり、建物下地 1 に水平にして上下相互に等間隔で並設固定されている。この場合、支持バー材 2 の相互間隔（横目地相互間のピッチ）寸法 P は、化粧パネル 3 の上下巾寸法に略適合されている。

【 0 0 1 5 】

支持バー材 2 は断面略 H 字状で、H 字の片側辺が上下に巾広く形成されており、この巾広側の板状片が建物下地 1 に固定されている。この場合、支持バー材 2 の巾広側の板状片には貫通孔 7 が穿設されており、この貫通孔 7 に挿通されるねじ釘、打ち込み釘等の固着具 8 によって、支持バー材 2 は建物下地 1 に固定されている。その際、支持バー材 2 の巾広側の板状片に穿設される貫通孔 7 が、他方の巾狭側の板状片（上下の係止片 4）よりも外側に位置しているため、この巾狭側の板状片は障害とならず、固着具 8 で支障なく固定することができる。

10

【 0 0 1 6 】

化粧パネル 3 は帯板状の木質板材であり、合板の表面に突板や化粧シート等が貼着されたり塗装が施されたものである。なお、化粧パネル 3 は、異なる様相のものが配列されても、或いは、上下で異なる大きさのものが配設されてもよいものである。ここでは、化粧パネル 3 が横長状となる向きで施工されており、その上下両端部の端面には凹溝 5 が全長にわたって形成されている。上下の凹溝 5 は同形状で同じ深さに形成されており、上記支持バー材 2 の係止片 4 と略適合する形状寸法である。

【 0 0 1 7 】

20

凹溝 5 内の底部分には、必要に応じてシート状のスペーサー 6 が収容される。このスペーサー 6 は凹溝 5 の深さを変化させるために用いられるものであり、合成樹脂や不織布等でシート状に形成されたものであるが、滑り易い材質であることが好ましい。スペーサー 6 は、凹溝 5 の長手方向全長にわたって収容されても、長手方向において部分的に収容されてもよい。また、スペーサー 6 として厚さの異なるものを数種類用意しておくこと、凹溝 5 の深さを複数段階で変化させることができる。

【 0 0 1 8 】

ここで、この実施形態の化粧パネル取付構造における施工手順を説明する。まず、図 2 に示すように、床面 F に接する状態で最下位置の支持バー材 2 を建物下地 1 に取り付け固定する。続いて、この支持バー材 2 の上側の係止片 4 を化粧パネル 3 の下側の凹溝 5 に挿入係合させて同化粧パネル 3 を接続し、この化粧パネル 3 の上側の凹溝 5 に支持バー材 2 の下側の係止片 4 を挿入係合させて同支持バー材 2 を接続する。そして、上側に接続された支持バー材 2 を建物下地 1 に取り付け固定することで、その下側の化粧パネル 3 も同建物下地 1 に取り付け固定される。

30

【 0 0 1 9 】

このように、壁に対して下から上へ支持バー材 2 と化粧パネル 3 とを交互に接続し、支持バー材 2 を建物下地 1 に順次取り付け固定していくことで内装施工は完了する。この場合、図 1 に示すように、必要に応じて凹溝 5 内にスペーサー 6 が収容され、支持バー材 2 の相互間隔寸法 P は調整される。また、化粧パネル 3 は支持バー材 2 に沿って水平方向 X に摺動され、横方向に隣接する化粧パネル 3 間の目地ライン M の位置が支持バー材 2 の上下両側間で相互に一直線状に揃うよう調整される。

40

【 0 0 2 0 】

なお、図 2 に示すように、最下位置の化粧パネル 3 の下端部分前面に巾木 9 を取り付けることで、最下位置の支持バー材 2 を覆い隠して床面 F との間を体裁良く納めることもできる。また、図 1 では、横方向に隣接する化粧パネル 3 間の目地ライン M の位置が支持バー材 2 の上下両側間で相互に一直線状に揃うよう調整されているが、上下の目地ライン M の位置が一定距離だけ横方向にずれるよう調整されて、化粧パネル 3 がタイル貼り状に配置されてもよい。

【 0 0 2 1 】

したがって、この実施形態の化粧パネル取付構造においては、同じ大きさの化粧パネル

50

3が支持バー材2に沿った方向Xに複数枚並設されていて、隣接する化粧パネル3間の目地ラインMを支持バー材2の上下両側相互間で位置調整する必要があるもので、この場合に、化粧パネル3は支持バー材2に沿った方向Xに摺動自在であるため、化粧パネル3を摺動させて支持バー材2の上下両側で相互に化粧パネル3間の目地ラインMが一直線状に揃うよう簡単に位置合わせ調整することができる。

【0022】

また、この実施形態の化粧パネル取付構造においては、支持バー材2の上下両側に突設される係止片4が化粧パネル3の支持バー材2に沿った上下両端部に形成される凹溝5に挿入係合されるため、化粧パネル3は支持バー材2を介し確実な接続状態で支持されて外れることなくスムーズに摺動され、目地位置を調整する作業も容易となる。しかも、壁に
10 対して下から上へ支持バー材2と化粧パネル3とを交互に接続し、支持バー材2を建物下地1に順次取り付け固定していくことで、内装施工を簡易に行なうことができ、逆に順次取り外すことで、化粧パネル3の取り替えを簡易に行なうこともできる。

【0023】

また、この実施形態の化粧パネル取付構造においては、スペーサー6が収容された凹溝5に係止片4を挿入係合することにより、係止片4の挿入深さが変化して支持バー材2の相互間隔寸法Pが調整されるため、スペーサー6を入れたり入れなかったり、或いは、スペーサー6の厚さを変更したりして、支持バー材2が介在する化粧パネル3間の目地巾寸法L及び同目地相互間のピッチ（支持バー材2の相互間隔）寸法Pを簡単に調整することができる。
20

【図面の簡単な説明】

【0024】

【図1】本願発明の一実施形態である化粧パネル取付構造を示す斜視図。

【図2】同化粧パネル取付構造を示す縦断面図。

【図3】従来例である化粧パネル取付構造を示す縦断面図。

【符号の説明】

【0025】

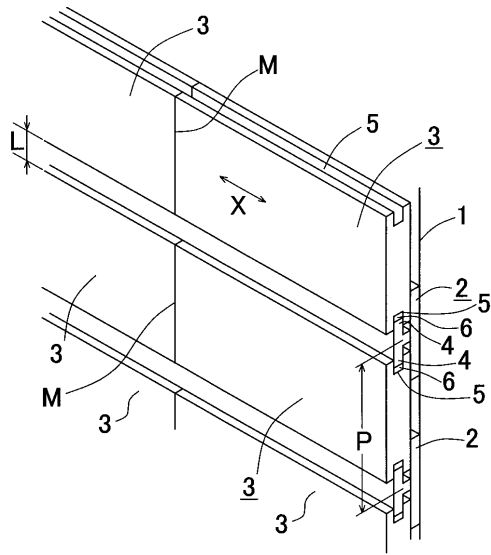
- 1 建物下地
- 2 支持バー材
- 3 化粧パネル
- 4 係止片
- 5 凹溝
- 6 スペーサー
- P ピッチ寸法（支持バー材の相互間隔寸法）

10

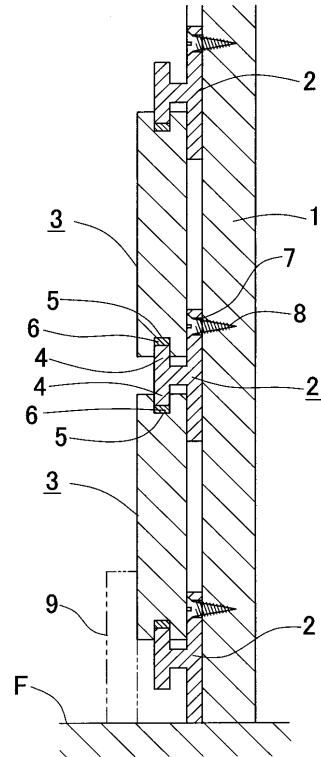
20

30

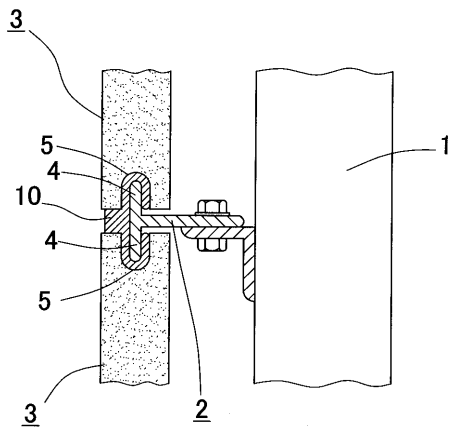
【図 1】



【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

F ターム(参考) 2E110 AA42 AA43 AA51 AB03 AB04 AB23 AB36 BA12 BB03 BD23
CA03 CC02 CC15 DA10 DB02 DB14 DC06 EA05 GA32W GA33W
GA42Z GB06Z GB42Z GB62W GB62X